

# 地域が自立し 存続していくための 方向を示唆

## 第三分科会



豊友会  
大本 昭裕

### 経験積み、意識の高揚

人口500人、戸数200戸余りの小さな中山間集落に、全国から人が集まることなど今まで経験したこともなく、ましてや豊友会発足40周年という記念大会開催の年でもある08年の

愛媛大会の分科会を引き受けることとなり、「本当に開催できるのだろうか」という不安がよぎったのも確かな事実である。

しかし、楽天家の菊岡会長が、会員を集めて「なんとかなるよ。わっはっは」というこの一言で引き受け準備がスタートした。

現役員は2年目を迎え、この全国大会をベースに置きつつ、地域のイベントや40周年記念大会の準備を進めたのである。事務局はこのよう



第三分科会全員集合（豊茂公民館）

な大会の経験もなく、元会長が資料作り奔走し、また大洲市の職員の協力を得ながらの準備となった。

この準備を進める上において、問題となったのは限られた会員しか集まらず、日程が迫ると多少の焦りも見られたということであつたが、実行委員会へ出席して他の団体の取り組み状況などの情報を聞きながら、「豊友会は素晴らしい」という評判をいただき、スタップも自信を持つて準備を進めることができた。

昨年は2月に40周年記念大会を開催して、発足当時の経緯や40年間取り組んできた活動の反省なども出ていたため、会員の地域づくりに対する意識が高揚したのも事実である。会員も固定し、イベントをするに

も限られた会員の参加のみで、会員の拡大が今後の課題の一つであり、その観点からみると準会員（1年会費を低額にし、イベントに参加してもらおう会員で、総会の議決権はなし）が、今回の全国大会の準備に参加してくれたことは朗報であるといえる。

豊友会では、分科会を運営するにあたり、全国大会は「外磨きと洗濯ができるチャンスであること」をもっとも意識した。

### 交流の中から生まれたもの

それが端的に現れたのが、最も意見交換の時間だったことは言うまでもなく、今後の活動にヒントになるような意見・提言を多数いただいた。

たとえば、豊友会メンバーが元青年団員主体であることもあり、「家庭の協力があるから今まで続いているのであり、



ポスターセッションの前のスタッフ（前夜祭）

女性の思いも取り入れてはどうか」とか、「会員の奥さんの理解を得て、準会員として誘ってはどうか」というような女性参加についての意見を多数いただいた。

また、「高齢者の交通手段として福祉バスの運行を考えては」「市の職員もいると思うが、その家を出先機関として地域の助け合いをしてはどうか」「若者は仕事を求めて都会へ出て行くが、田舎へ帰ってこいと発信したり、キウイなどこの地区の特産品を活用して料理などに活かしたりしてみてもどうか」「資金調達については、一戸あるいは一人一口というように楽しさを求めて参加するのであれば有料にしてはどうか」「この地区は商売がない。もっと看板などをつくり、情報を発信してはどうか」などの貴重な提言も寄せられた。

男女共同参画社会が言われている中



生徒の説明を受ける参加者  
(長高水族館)



赤橋を見学する  
らしと参加者  
(長浜)

また、福祉バスの運行や市の職員が広報マンとして地域づくりに係わることは大切なことであり、一人暮らしの高齢者が増加している豊茂地区でも、平成14年に発足した「ボランティアグループ豊茂」が取り組んでいる地域通貨の活動を拡充させ、お互いに助け合い、支えあう意識の醸成に努めていきたい。

さらに、参加者の中に豊茂地区の反対側に位置する日土地区の方から、出石寺で結ばれている関係もあり、近い将来出石寺サミットを開催しようと持ちかけられ、過疎高齢化、いわゆる「限界集落」、耕作放棄地問題など、お互いに知恵を出し合いながら、明るく、そ

で、豊友会では女性の参加を拒絶してきたわけではなく、記念大会やイベント時には各会員の奥さんたちの参加を得て取り組んできており、「女性が元気などころには活気がある」と言われるように、今後女性の感性を活かしながら地域づくりを進めていきたい。



懇親会  
（漁亭）  
いろいろな意見が交わされた



「持続可能な地域づくり」について  
討議された会場（豊茂公民館）

この愛媛大会を終えて思うことは、今後、豊友会が中心となり、豊茂地区の将来像を描くうえからも、非常に参考になる意見をいただいたことは分科会を引き受けて本当によかったと思う。会員一人ひとりが、この貴重な経験を活かし、次の50周年に向けてスタートしていきたいものである。

### 次の50周年に向けて

して希望のもてる地域づくりに努めていこうということになった。